

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2016年9月26日～2016年10月2日】

[当地報道をもとに作成]

平成28年10月12日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

▼被占領地域の人権・人道状況に関する共同声明(29日)

・ジョージアは国連人権評議会第33回会合において、46か国を代表し、アブハジア・ツヒンヴァリ地域の人権・人道状況を憂慮する共同声明を発表。国連人権高等弁務官事務所の関係者が両地域への訪問を拒否され続けていることを懸念する9月13日の国連人権高等弁務官の声明に基づき、地域的あるいは国際的な人権監視メカニズムの必要性を強調している。

【南オセチア】

▼IPRM会合(28日)

・エルグネティにて第70回IPRM会合が開かれた。行政境界線の通過、拘束事案、行政境界線付近の住民に対する「国境化」の影響などについて議論。10月8日のジョージア国会選挙投票日の住民の移動の自由についても議論された。次回の会合は10月26日に行なわれる予定。

2. 外 政

▼ローマ教皇のジョージア訪問(30日—10月1日)

・フランシスコ・ローマ教皇がジョージアを訪問。30日午後に到着し、マルグヴェラシヴィリ大統領、イリア2世ジョージア正教会総主教らと会談。翌10月1日には、トビリシ市内のスタジアムで約25,000人を前にミサを執り行った後、トビリシ市内のカトリック教会およびムツヘタのスヴェティツホヴェリ教会を訪問した。ローマ教皇のジョージア訪問は、1999年のヨハネ・パウロ2世の訪問以来2度目。

・「フ」ローマ教皇は「マ」大統領との会談後、「ジョージアの文化・伝統は欧州文明の基盤にジョージアを位置づけるものであると同時に、その地理的位置により欧州とアジアの架け橋であり、人々の間の交流を促進している」「持続的な前進のためには、地域の全ての人々と国々の平和的な共存が必須の条件となる」と述べた。

・9月21日に急進的な正教徒のグループが在ジョージア・バチカン大使館のそばで、「バチカンは精神的な侵略者である」などと書かれたポスターを掲げ、訪問に反対するデモを行なった。同じグループは教皇の到着の際にも空港周辺でデモを行なった。28日にジョージア正教会はこのような態度は「全く受け入れられない」との声明を発表した。

▼米国がジョージア沿岸警備隊にパトロール艇を供与(30日)

・米国がジョージア沿岸警備隊にパトロール艇2隻を供与。米国で行なわれた供与式で、ガメザルダシヴィリ・ジョージア国境警備隊長は、「2隻は沿岸警備隊の能力を著しく強化する」と述べた。

3. 内 政

▼統一国民運動幹部の会話の盗聴音声の公開(27日)

・インターネット上に何者かがサーカシヴィリ前大統領と統一国民運動(UNM)幹部の会話とされる音声の公開。会話のなかで「サ」前大統領はUNM幹部に対し国会選挙の投票日後に大規模な抗議行動を組織して情勢を不安定化させるよう指示しているとされる。

・「サ」前大統領およびUNM幹部らは音声は合成されたものであるとコメント。

・26日にはUNMの青年組織Free Zoneの一部の活動家が記者会見を開き、組織からの離脱を表明。離脱するメンバー2名は、4日前にキエフで「サ」前大統領に会い、選挙後の挑発・不安定化工作を要請されたとして、UNMが選挙後に社会の混乱を企図していると非難した。活動家らは国家保安庁の尋問を受けた。

▼連合「国民のための国家」からのギルチの離脱(27日)

・ギルチは、連合「国民のための国家」が「運営、構成員間の関係および財務の面で深刻な問題を抱えている」との短い声明を発表し、連合からの離脱を発表。ギルチは国会選挙に参加しないことになる。

・ギルチによる離脱の発表後間もなく、連合の指導者ブルチュラゼ氏はTVで、ギルチの連合からの「排除」およびギルチ党員の比例代表名簿からの削除は、「ブ」氏自身の決断であったと述べた。その理由として、「ブ」氏は、ギルチがイヴァニシヴィリ元首相から選挙資金を得る計画を持っていたことを知ったためであると述べた。

・「ブ」氏の発言後、ジャパリゼ・ギルチ党首は会見を開き、「ブ」氏の発言を否定し、離脱を決定した理由は、「ブ」氏がギルチに対して資金を要求し、資金を提供しない場合には比例代表名簿からギルチ党員を削除すると脅迫したためであると述べた。

▼憲法裁判所長官の任期満了(30日)

・憲法裁判所のパプアシヴィリ長官およびその他3名の裁判官の任期が満了。後任の裁判官は国会と最高裁判所がそれぞれ1名ずつ、大統領が2名を指名し、1か月以内に長官を選出する選挙が行なわれる。既に大統領はイメルリシヴィリ国家安全保障会議書記およびクヴェレンチ

ヒラゼ元大統領政務官を、最高裁判所はトゥグシ憲法裁判所法務・調査局長を指名している。

▼ディディネジでの小競り合い(10月1日)

・サメグレロ地方ディディネジ村でジョージアの夢・民主ジョージア党(GDDG)の選挙資料を配布していた男女3名と統一国民運動(UNM)の支持者の間で小競り合いが起き、3名が負傷した。GDDGとUNMは相互に挑発を非難。

▼ゴリでの銃撃事件(10月2日)

・ゴリ市近郊で小選挙区の立候補者オクルアシヴィリ元国防相(無所属)が街頭演説を行っていたところ、何者かが「オ」元国防相に向け発砲。「オ」元国防相の警護員とスタッフの2名が負傷した。

・事件後、「オ」元国防相は、犯人を既に特定しているとして、ゴリでは最近犯罪集団の活動が活発化しており、それらの集団の背後に与党ジョージアの夢・民主ジョージア党(GDDG)がいると非難。

・カラゼ GDDG 幹事長は事件の政治的な背景を否定。

4. 経 済

▼国立銀行がドルを売却(27日)

・国立銀行は外貨市場でドルを4千万ドルを売却。9月に入ってドルの売却は3度目。計8千万ドルを売却した。

・2016年1月からこれまで、国立銀行は1億4千万ドルを売却し、2億7835万ドルを購入している。

・9月27日の為替レートは1米ドル=2.327ラリで、1年前より2.3%、年頭より2.8%ラリ高となっている。

・8月末の時点での外貨準備高は28億8800万ドル。前年同期比4250万ドル増。

▼2016年8月の経済成長(28日)

・2016年8月の実質GDP成長率は前年同月比2.9%。2016年1月～8月の実質GDP成長率の平均は前年同期比2.7%。

▼石油精製工場の建設(29日)

・経済・持続的発展省とGEOPARS社との間で、スプサの133万m²の国有地の譲渡に関する契約が調印された。GEOPARS社は石油精製工場を建設する。投資額は約2千万米ドル。工場はタンカーで運ばれるイラン製原油を精製する予定。